

令和6年度 東条学園小中学校 学校評価(中間)(教職員)

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	実践目標と成果	評価
生きてはたらく学びの向上を図る	基礎基本の確実な定着・学びに向かう力	実践目標 多様な一人一人の児童生徒に応じ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業を工夫する。	教職員
		成果 学校経営研究発表会に向けた12学級の公開授業づくりにおいて、研究主題に迫る手段の一つとして「個→他者との関わり（協働）→個」といった授業形態を生かした授業づくりについて検討することができた。	3.3 (3.2)
		課題と方策 他者に関わる（協働する）ことが必然な課題であるが、そして他者に関わる活動をしたからこそ到達した学習の深まりはあったか、という観点で授業を検討することは今後も必要である。学校経営研究発表会に向けて授業づくり部会全教科部会で学習指導案検討を重ね、上記実践目標に迫る授業を公開し、日常の授業で実践できるようにしたい。	
	思考力・判断力・表現力の育成	実践目標 振り返り（メタ認知）の充実を図り、効率的な家庭学習の進め方を支援する。	教職員
		成果 学校経営研究発表会に向けた12学級の公開授業づくりにおいて、研究主題に迫る手段の一つとして「振り返りは『他者に関わることで考えを深めている』ことがわかるようにする」というポイントを設定し、授業について検討することができた。「学習の手引き」を昨年度の修正案を生かして発行配付することができた。	3.0 (3.0)
		課題と方策 授業づくりにおいて、「目標」と「展開」が期待する振り返りにつながるものになっているか、検討をすることは今後も必要である。指導案検討会等の機会に検討を重ねる。「学習の手引き」をより家庭で活用しやすい物にするためのアイデアや意見を集約するために、児童生徒に2学期末に振り返らせる機会をもつ。	
ICT活用指導力の向上	実践目標 ICTを活用した「アウトプット（深い学び）」を意識した授業づくりを推進する。	教職員	
	成果 ミライシードなどのアプリを利用して、授業の中でそれぞれの意見を効率的に共有することや、プレゼンテーションソフトを利用した発表スライドの作成など、一人1台端末を利用した活動を増やすことができています。	3.2 (3.1)	
	課題と方策 すべての教職員が端末を効果的に活用することができるよう、ICT支援員による新しいシステムについての講義を計画するなど、研修の充実を図る。		
他者をつなげる力を育成する	学級集団づくりの充実	実践目標 エンカウンター等を活用した人間関係づくり、積極的なステージ交流を推進する。	教職員
		成果 給食部によるハッピーランチ、授業における異学年交流など、学年やステージの枠を超えた関わりを持つ機会を設けることができた。また、学級においても道徳やHRの時間に自分の気づきや感じたことを伝えあうことを通して、自己または他者理解を深めることができた。	3.3 (3.3)
		課題と方策 ステージ間の交流の場を増やすとともに、話し合い活動などを取り入れて関わり合う必然性を生み、児童生徒自らが関わり合おうとするような取り組みを今後も増やしていく。	
	体験活動等の充実	実践目標 学園会の中央委員などリーダーに明確な考えを持たせ、自分の言葉で自信を持って発言、行動できる力を育てる。	教職員
		成果 中央委員と正副専門部長が実行委員として、体育大会でのステージ演技や学園会演技の企画・運営を担うことができた。また学園生集会の機会を増やしたり、情報共有ボードを設置し、自分たちの発言する機会や、考えたことを広めていく機会を増やすことができた。	3.4 (3.6)
		課題と方策 大きな行事にとどまらず、ステージや学年毎に、日常の学校生活の中でも児童生徒が自主的に活動できるような機会を作っていく。	
思いやりや寛容の心を持ち、互いに高め合う力を育成する	道徳教育の充実	実践目標 教員が協働して、自分の問題として「よく考え」、その考えをより深めていくために級友と「議論する道徳」をめざした授業づくりを推進する。	教職員
		成果 各学年において、児童・生徒観に基づいた授業を行うことができた。また、教員内で評価についての共通理解をすることができた。	3.1 (3.2)
		課題と方策 授業のアーカイブを図り、各教員の授業力向上につなげていく。	
	平和教育	実践目標 つなぐ平和学習を通して、平和の尊さ、大切さを考え、行動する力をつけさせる。	教職員
		成果 沖縄や広島で学んできたことを下学年に伝えることを通して、平和の尊さや大切さを考えることができた。	3.6 (3.7)
		課題と方策 発表を終えても平和教育を継続していくために、道徳をほじめてとした各教科の平和に関連した単元で平和の尊さや大切さについて考える機会をつくる。	
健康な心身を育て、安全に対する意識を高める	健康な心身の育成	実践目標 成長を促す指導や予防的な指導等により、教育相談（心のケア）の充実を図る。	教職員
		成果 専門部を中心にあいさつレベルのアンケートをとり、自治的な活動を行うことができた。また、学園生による児童生徒への、レジリエンス力を育てることの研修をおこなった。発達段階に応じて、各学年・学年層で連携しながら教育相談等を実施することができた。	3.2 (3.3)
		課題と方策 今後、あいさつレベルが児童生徒や教師たちだけでなく周知され、あいさつが積極的にできる学園生になるよう、振り返り（アンケート等）を実施する必要がある。	
	健康や体力の増進	実践目標 系統的な体幹トレーニングを実施し、子どもの発達段階に応じた体力・運動能力の向上や正しい姿勢を身に付けさせ、けがの予防に努める。	教職員
		成果 日々の授業で体力や技能の向上を目指す補強運動を毎時間実施することができた。専門部活動と連携を図りながら学園生の体力向上に向けた取組を行い、関心を高めることができた。	3.2 (3.2)
		課題と方策 新体力テストの結果を昇降口に掲示するなど日常的に児童生徒が自分の体力の変化について興味や関心をもって主体的に改善していけるような指導をしていく。	
危機管理の充実	実践目標 東条地域学校協働本部と連携して通学路の見える化を一層充実させるとともに、危険予測できるなど自らの命を守る能力を身に付けさせる。	教職員	
	成果 ステッカーを貼ってのながら見守りの車が増えた。東条110番ののぼりの本数が増えた。	3.2 (3.3)	
課題と方策 通学班長が「しっかりと並ばせて登下校する」意識を高めるために、定期的に繰り返し指導していく。			

令和6年度 東条学園小中学校 学校評価(中間)(教職員)

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない

評価の観点	評価項目	実践目標と成果		評価	
心通う集団づくりをめざして、積極的な生徒指導を推進する。	自己管理能力の向上	実践目標	時間を意識させ、係(当番)活動や清掃活動など与えられた仕事に責任を持たせる。	教職員	
		成果	ノーチャイムを実施しているなかで、時間の意識をもつことができるようになってきている。また、教師の声かけや学級経営により、当番活動、係活動に積極的に取り組める学園生が多い。	3.0 (2.9)	
	協働した指導や支援体制の充実	実践目標	SCやSSWを含めた学園生の支援体制【ケース会議や学年(層)会議】を充実させ、福祉・医療機関や警察等と積極的な行動連携を図る。	教職員	
		成果	教職員・SC・SSWの連携を密にし、助言のもと、チーム学校として学園生への支援につなげることができた。また、児童生徒支援教員による不登校傾向や集団になじめない学園生の個別対応の支援が充実してきた。	3.3 (3.6)	
一人一人の教育的ニーズに応じた適切な特別支援教育を推進する	適切な教育課程の編成	実践目標	通常学級における要支援学園生の支援体制を充実させ、本人・保護者の願いを中心に据えてライフステージに応じた適切な教育課程(教育支援計画等)を編成する。	教職員	
		成果	新年度の早い時期に職員研修(サポート研修)を行い、要支援学園生について共通理解を図った。また、サポートファイルを利用して、家庭とも相談して教育支援計画を立てることができた。	3.3 (3.3)	
	切れ目のない児童生徒支援	実践目標	加東市発達サポートセンター「はびあ」との連携や、デリコラ(巡回相談)等を積極的に活用し、きめ細かく適切な学園生支援・家庭支援を行う。	教職員	
		成果	「はびあ」と就学相談をして、児童生徒支援の方法を相談することができた。	3.5 (3.5)	
	地域に開かれた学校づくりを推進する	地域との連携	実践目標	自治的なPTCA活動を充実させ、学園生の健全育成を中核に、学校と地域が一体となって連携・協力しながら教育活動を行う。	教職員
			成果	PTCA活動の企画・運営をPTCA本部や各部会の正副部長が中心となり、主体的に行う道筋が整った。	3.6 (3.6)
地域との協働		実践目標	人材バンクの充実を図り、地域行事やボランティア活動への参画、地域住民の積極的な学校支援などを通して、東条地域の担い手を育む教育を推進する。	教職員	
		成果	昨年度から地域学校協働活動推進委員会を中心に行ってきた、花壇の花植や体験学習等、地域を巻き込んだ活動が継続して実施できた。	3.5 (3.5)	
地域への発信	実践目標	地域での作品展示、コスモス【⇒加東市の花】花いっぱい運動を深化させる。	教職員		
	成果	校外展示が定着し地域への情報発信の一つとなった。また、本年度も「戸坂の花文字」「地域へのコスモスの種の配布」等継続した取り組みができた。	3.6 (3.6)		
教職員が心身ともに健康で、働きやすい職場環境づくりを進める	児童生徒と向き合う時間の確保	実践目標	計画的な学年(層)会議、会議資料の事前配付、各資料の整理整頓を確実に実施する。	教職員	
		成果	職員会議のペーパーレス化に取り組み、そこから各種配布物のデータ化を進めることができた。業務改善の担当委員会で、計画的な議論ができた。	3.1 (3.0)	
	ワーク・ライフ・バランスの保持	実践目標	週1回(17時)の定時退勤日やノー部活デーの完全実施、計画的な年休等取得(各学期4回目途)により教職員のワーク・ライフ・バランスの保持に配慮する。	教職員	
		成果	職員同士で意識し合うことで、定時退勤はおおむね定着してきた。ノー部活日も日程変更等を確認し合い、計画的に実施できている。	3.0 (3.0)	
	教職員相互の協力・協働	実践目標	円滑なコミュニケーションを図り、教職員相互の協力・協働の職場環境づくりを一層推進する。	教職員	
		成果	異学年交流を進めてきた中で、それぞれの学年団での協力・協働が充実してきた。それが、普段の教育活動でも教職員の円滑なコミュニケーションにつながっている。	3.4 (3.5)	